環境にイイこと、プラス。

環境にやさしい容器包装

エコ・ファーストの約束 1

容器包装の本来の目的は、商品の品質や衛生安全を保全し、手軽に安全に持ち運びできることです。セルフサービスで販売しているユニーでは、お客様が自分で商品を選びレジで精算するシステムなので、ほとんどの商品は容器包装に入れて販売しています。
ところが、使い終わった容器包装が家庭ゴミの50%を占め、廃棄されたものを焼却処分する際に大量のCO_2を排出し、地球温暖化の一因になるともいわれています。
ユニーでは、お客様やメーカーと協働で、容器包装の3Rと環境負荷の低減を図っています。

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- トレイを使わない販売の検討
- 贈答品などの簡易包装
- マイボトルやマグカップなどの利用促進

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルによる店頭回収
- 再生資源として製品（トイレットペーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする
- ペットボトルキャップを店頭回収し、自動車部品や換気扇部品などへのアップサイクルを推進

3 サスティナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- 環境配慮PB商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用
- 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- 生鮮食品の販売に生分解性バイオマスプラスチック、ポリ乳酸製パックを使用

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

レジ袋の歴史は古く、1970年代にスーパーで商品持ち帰り用に使われ始めました。薄くて丈夫、水にも強く便利なことから瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度使えば廃棄され、自然には分解しないことから、ゴミの増加や自然破壊につながると大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まりました。ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組んでいます。

2001年からはマイバッグを配布したり、2006年には「ノーレジ袋キャンペーン」を展開したり、さらに啓発活動を進めましたが効果が出ず、2007年からは「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO_2が発生すること、原料である化石燃料（石油）の枯渇なども問題にされ、持続可能な社会の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋無料配布の中止に踏み切りました。

レジ袋削減のための取り組み

お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「レジ袋をもう一度使いましょう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。

お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。

ノーレジ袋キャンペーン

2006年から「レジ袋を使わないお買い物」をお客様と一緒に進めるために、ポスターや館内放送でアピールし、レジ袋の辞退率を高めることができました。

レジ袋の無料配布中止

全店の食品売り場でレジ袋無料配布を中止にしました。

名古屋市緑区　アピタ鳴海店

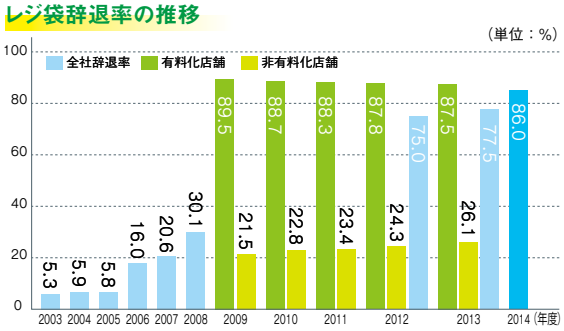
全店の食品売り場でレジ袋の無料配布中止

2014年2月、消費者団体や自治体の協力で、全店の食品関連売り場でレジ袋無料配布の中止に踏み切りました。

埼玉県　アピタ吹上店

群馬県　アピタ高崎店

レジ袋辞退率の推移



※2014年2月20日全店でのレジ袋有料化実施